

学 会 記 事

◎定例常議員会(35.3.30)有権者 49 名,うち出席者:本間,富樫両副会長,樋浦,大西,岡田,神谷,左合,谷口,西村の 9 名,委任状,田中会長,千葉,中村,中村(椿),菱田,安藤,内田,尾之内,格井,神山,福岡,牧,宮地,山田,足立,上野,川村,橋本,東,石原,田中,高津,藤田,佐々木,庄司,山崎,武田,田賀,篠原,田内の 30 名,計 39 名で成立,今支部長(代板倉),川村,八十島,末森専務の各理事が出席。
(1) 昭和 35 年度事業計画案につき川村,八十島,末森専務の各理事より説明可決。

1. 主たる常置委員会の概要

1) 会誌編集委員会 会誌 45 巻 4 号~46 巻 3 号発行,これに付随する計画については編集部長から説明。

2) 論文集編集委員会 定期論文集 68 号~73 号発行,単独論文集,各種フライ アッシュ共通試験報告,ほか著者希望により随時発行。

3) 文献調査委員会 会誌毎号に文献抄録および目録の紹介とともに文献カード調整整備。

4) 水理委員会 水理研究会を研究グループとして,5月~第5回水理研究発表会の開催,第9集水理学研究の現況発行。国際水理学会との連絡事項。

5) 耐震工学委員会 7月~第2回世界地震工学会議開催の関連事項,9月~第4回耐震工学研究発表会開催,英文論文集発行。

6) 土木振興対策委員会 土木工学振興に関する理事会の諮問機関として随時開催。

7) 海外連絡委員会 国際会議渡航に関する事項および海外PRに関する事項のため随時開催。

8) 橋梁構造委員会 9月~第7回橋梁・構造工学研究発表会開催。国際橋梁・構造工学会議との連絡事項につき随時開催。

9) コンクリート常置委員会 コンクリートに関する研究事項につき随時開催。

10) プレストレスト コンクリート委員会 プレストレストコンクリートに関する研究事項につき随時開催。目下PC施工指針改訂起草中。

11) 海岸工学委員会 海岸工学の研究事項につき随時開催。

11月~第7回海岸工学講演会開催,英文論文集第3巻発行。

12) 論文抄録委員会 34年度第6集の編集を終り目下印刷準備中。

13) 災害対策研究委員会 風水害等による災害対策に関する研究のため随時開催。

14) 土木技術者資格研究委員会 土木士法制定を目的としてその前提となる諸条件につき研究。

15) フライアッシュ小委員会(別途会計) フライアッシュに関する研究につき随時開催。共通試験報告を論文集として発行。4月~フライアッシュ研究発表会開催。

16) 大正以降土木史編集委員会 50周年を目標として目下起草中。

17) 土木賞規約制定委員会 現行の土木賞授与規程を改正のため起案中。

18) 土木賞委員会 34年度を5月終了し,35年度を総会後発足。

19) 土木会館委員会 会館の増築

20) 企画委員会(仮称) 主として民間対策,刊行物の企画。

2. 学会監修による図書刊行委員会

1) 土木工学ハンドブック改訂委員会

2) 土木工学叢書委員会

3. 委託研究(国鉄)

1) 長大橋梁および高張力鋼鉄道橋研究委員会

2) 構造物耐震設計研究委員会

4. 各種行事(各種委員会および他学協会連合を含む)

1) 関東地区常議員半数改選 4月

2) 定例常議員会

(34年度事業報告,決算報告および理事改選) 5月

(35年度事業計画,予算その他) (36年) 3月

3) 通常総会,年次学術講演会,見学会 5月

4) 水理研究発表会 5月

5) 第2回世界地震工学会議(連合) 7月

6) 夏期講演会 8月

7) 第10回応用力学連合講演会 9月

8) 第4回材料試験連合講演会(京都) 9月

9) 第7回橋梁構造工学研究発表会 9月

10) 第4回地震工学研究発表会 10月

11) 第7回海岸工学研究発表会(大阪) 11月

12) 第2回原子力シンポジウム (36年) 2月

13) その他(随時行なうもの)

講演会,シンポジウム 2~3回

見学会,エキスカージョン 2回程度

映画会 2回程度

(2) 規則の一部改正案,正員会費を1200円に改正,学生員会費を600円に改正(昭和35年4月1日より実施)を末森専務より情況説明可決。

(3) 昭和35年度予算案を末森専務より説明可決。

収入の部		支出の部	
I 会費	19160000	I 総務費	12340000
II 諸刊物収入	7000000	II 会議費	300000
III 雑収入	7300000	III 負担金	140000
IV 繰入金	800000	IV 支部交付金	2000000
		V 事業費	19280000
		VI 施設管理費	100000
		VII 予備費	100000
合計	34260000	合計	34260000

◎第10回理事会(35.3.24)出席者:田中会長,富樫副会長,藤村,八十島,比田,西嶋,川勝,末森専務の各理事。A 協議事項:1) 総会関係各事項(会誌3月号発表)を承認。2) 35年度予算案(正員会費,学生員会費改正による)の一部を訂正して常議員会に提出することを承認。3) 事務局に会員課を設けることを承認。4) 理事交代について候補選考世話人会を設けること,世話人一平山復二郎,篠原武司,比田正,小西一郎,飯吉精一,川村満雄,田中行男,八十島義之助,末森猛雄の諸氏。5) 大学に道路工学講座新設の要望があり学会としては大いに協力し関係方面に建議の手続きを進めるこ

と。6) 地震工学英文論文集発行に関し岡本教授から計画について説明された。B5 112p 1000部として 258000円の見込みである。学会としては 150000円を予算に見込むこととする。地震会議の出席外人に寄贈し一般販路については研究すること。7) 外人会員で外貨送金の場合の会費は U.S. \$ 5.00 とする。8) —1 テトラポットの特許料についての SOTRAMER よりの照会は建設省河川局長, 同 道路局長, 運輸省港湾局長, 海上保安庁長官, 農林省農地局建設部長, 水産庁漁港部長, 北海道開発局長, 防衛庁建設本部長, 特許庁審査第二部長にそれぞれ善処方依頼した。8) —2 企画委員会設置(民間対策, 刊行物に関する事業) 案についてはなお検討すること。

8) —3 西部支部改選役員を委嘱すること。

支 部 長 石井 譲 福岡県土木部長
地区常議員 秋竹 敏実 九州地方建設局企画室長
" 武田 武男 九州電力KK土木部計画課長
" 篠原 謹爾 九州大学教授
" 田内 俊 福岡県土木部河川課長
" 春成 正 国鉄西部支社調査役

8) —4 関東地区常議員改選候補者選考世話人会を設置し, 最上教授に主宰を願うこと。8) —5 建設技術フィルムライブラリー設定(小石川工高)を後援することを承認。9) 2月中会員入退会を承認。

B. 報告事項: 2月29日現在の会計報告, 刊行物申込状況, 2.23~3.18の各種委員会報告, 支部報告。

◎各種委員会

1. 第4回論文集部会長(35.2.23)出席者: 最上委員長, 八十島編集部長, 奥村, 竹内両部会長, 田島, 千秋, 山口, 細井の各部会幹事, 徳平編集幹事。議事: 1) 各部会報告, 2) 論文集 67号登載論文の決定, 3) その他。

2. 臨時論文集編集委員会(35.2.23)出席者: 最上委員長, 八十島編集部長, 奥村, 竹内, 鈴木, 井上, 山口, 渡辺, 平嶋, 伊東, 伊藤(和), 木村, 千秋, 田島, 細井, 光易, 伊藤(文), 多谷, 森, 嶋の各委員, 徳平編集幹事。議事: 1) 土木賞推せん理由書作製につき論文集委員会として協議した。

3. 理事と各委員長(幹事をふくむ)との懇談会(35.2.24)出席者: 理事—田中会長, 本間副会長, 尾之内, 田中, 八十島, 川勝, 西嶋, 末森専務の諸氏。委員長および幹事—最上, 西脇, 樋口, 佐藤, 吉川, 沼田, 久保, 内海, 福田, 細井, 左合, 鈴木の諸氏。

内容概要:

会長あいさつ—本日お集りを願ったのは, 従来とかく各委員会の活動と理事会との密接な連係がとれていなかったものがあるように認められるので, ちょうど35年度事業計画および予算の編成中であるのを機会に, 理事と各委員長 および幹事の方々と, 学会運営に関し腹藏なき意見をかわしたいと存じた次第であります。本年度発足した委員会は, ご承知のとおり災害対策研究委員会, 土木技術者資格研究委員会等でありますが, 目下新たに

35年度企画しておるのは, 海外連絡委員会を改組発足して既往の業務のほか同委員会により, 英文論文集の発行その他の方法によつて日本の土木工学の海外紹介の事業を起こしたいと存じております。

内海委員長—(土木振興対策委員会)

1 土木振興対策委員会は理事会に建議する事項を協議して学会運営の大綱を指示するのが目的である。従つて事務局からも諮問事項を出してほしい。現在までに提案したのは専務理事の設置と, 土木土制度の研究制定の二つの事項であつた。

専務理事は終始学会の確実な発展をめざして運営の企画立案を眼目とし, それに専念することを使命とするのである。いわゆる事務局長でないことをご注意申し上げる。

1 土木学会は土木工学各分野の学協会と横の連絡を密接にし, 総合的立場にあることを心がけられたい。従つてそのさん下の各学協会の講演会等の開催にも協力するよう努められたい。

1 土木会館の増築計画を促進して今の空地を有効に利用してほしい。

1. 土木振興対策委員会の委員の構成を若返らせるようにしたい。

鈴木委員長—(土木技術者資格研究委員会および土木史編集委員会)

1 PRの意味をふくめていろいろの意見発表などを土木学会長の名においてどしどしやること。

1 この委員会は毎月1回開く計画。

1 いろいろの官公庁研究機関には土木学会理事者が参画して, 土木工学の基礎的研究を後援するようにしたい。

1 常議員会に委員の活発な意見が出るよう長老の出席を遠慮してもらつたことがある。

沼田委員長—(耐震工学委員会)

1 地震の研究に努力しているが, 建築に比較して低調である。例えば強震計の設置にしても土木関係に少なく, もう少し活発にやりたい。関係各官公庁の技術者の積極的協力を願いたい。

福田委員長—(土木製図規格委員会, 橋梁構造委員会, 土木工学ハンドブック改訂委員会)

1 土木製図基準の統編については一応委員会を開いて協議する。

1 橋梁構造委員会は例年どおりの計画でよい。

1 ハンドブックは目下進行中である。

1 学術会議会員として望むことは……土木工学技術に関する要望事項をどしどし建言してほしい。災害対策協議会の設置については学会として強力に後援してほしい。

会長の結び—まだお話しを願う方がありますが, だいぶ時間が経過しましたので, 残念ながらこれ位にとどめて結論として

1. 各委員会に理事が分担して参画するようにする。

2. 各学協会との連絡をより一そう密接にするようにすることをお約束して散会いたします。

4. 海岸工学委員会(35.2.29)出席者: 本間委員長, 林, 松本(代御巫), 宇野木, 永井, 太田尾, 佐島, 新妻(代吉村), 広谷(代斉藤), 堀川, 久宝, 真嶋の各委員, 細井委員兼幹事。

議 事:

(1) 第7回海岸工学講演会開催計画

会 場: 大阪市とする。

日 程: 11月始めとし10日(木), 11日(金), 12日(土)を予定する。

課 題: 一般講演 1) 高潮および津波 2) その他

総合講演

講演申込：6月末日 原稿締切：8月末日
見学会：大阪港，尼崎港，神戸港を予定する。

(2) 第7回国際海岸工学会議（オランダ8月）への論文提出について

本間教授，永井教授，運輸省，建設省，田中 清教授，Committel として伊勢湾台風に関する二，三の問題

(3) Coastal Engineering in Japan Vol. 2 が発刊されたので各委員は販路を考えてほしい。

(4) その他

a) 委員会の35年計画は例年どおり必要に応じ随時開催して協議する。研究発表会は(1)のとおり。

b) 海岸保全施設設計便覧改訂の準備を始める。

e) 海岸保全施設小委員会および波力小委員会は本委員会に一本化する。

5. 臨時会誌編集委員会 (35.3.2) 出席者：田原委員長，海保，樋口，都，斉藤（代 土居・佐藤），吉田，米沢の各委員，杓掛幹事。議事：1) 土木賞推せん理由書につき最終的打合わせを行なった。

6. 第10回文献調査委員会 (35.3.3) 出席者：樋口委員長，安芸，日野の両委員，高橋前幹事，佐藤幹事。議事：1) 会誌45巻4号会誌登載抄録および目録の選定について，2) 委員会後高橋前幹事と懇談した。

7. 第6回国鉄委託構造物の耐震設計研究委員会幹事会 (35.3.4) 出席者：岡本副委員長，国分委員，久保幹事長，伊藤，池田，小寺，河野，笹沼，白石，土居，野沢，伯野，御牧（代地引），宮崎の各幹事，永尾勝義氏。議事：国鉄に提出すべき資料の選択および当日提出された資料（21～27）につきそれぞれ提出者から説明，今後のスケジュール，本委員会に依頼事項につき打合せた。

8. 第3回災害対策研究委員会幹事会 (35.3.7) 出席者：岡田委員長，渡辺（代大河原），安芸（代吉村），箕輪，森本，君島，丸山，三木の各幹事，八十島編集部長。議事：建設省防災課，国道課，治水課からそれぞれ災害報告資料が出され説明された。1) 委員会としては災害資料の収集とともにその対策について各所管の対策資料を持ち寄ること。2) 編集部企画する伊勢湾台風災害報告書編集に対する資料を提供することは早急には困難である。

9. 第10回会誌編集小委員会 (35.3.7) 出席者：田原委員長，斉藤，上東，樋口，足立，後藤（東北）各委員。議事：1) 45巻3号の口絵写真，ニュースの選定，2) 45巻4号の会誌編集について最終的な決定を行なった。3) 豆知識，編集後記の執筆者を決定。4) その他。

10. 臨時予備審査委員会（年次講演会関東地区）(35.3.9.) 出席者：八十島委員長，奥村，嶋，田島，竹内，樋口（欠席：伊東，都，渡辺）。議事：1) 推薦15件につき資料により審査の結果を説明された。2) 厳選批判の結果1件を推薦することとし嶋委員が推薦文を起草すること。

11. 第5回論文集各部委員会 (35.3.14) 出席者：第1部会一奥村部会長，平嶋，井上，伊藤（文），君島，大久保の各委員，田島部会幹事。第2部会一竹内部会長，芦田，藤波の両委員。第3部会一最上部会長，竹下，森，高橋（彦）の各委員，山口部会幹事。第4部会一丸安部会長，松原，鈴木，佐藤，多谷，藤井（代知久）の各委員，細井部会幹事，徳平，西脇両編集幹事。議事：1) 各部会で審査中原稿の審査報告，2) 新規受付原稿審査委員の決定，3) その他。

12. 構造物の耐震設計研究委員会 (35.3.17) 出席者：沼田委員長，岡本副委員長，那須（代表），知仁（代菅原）の各委員，久保幹事長（委員兼務），池田，河野，小寺の各幹事。議事：昭和34年度委託研究として日本国有鉄道から耐震設計方法につき，研究委託があり，その後6回にわたり幹事会を開催，審議方法としては，土木構造物の耐震性を明らかにするために，震害例の統計的調査をし，比較的データのそろっている点から関東，南海道，今市，十勝沖，福井の5地震を対象として，今年度は橋梁，橋台，橋脚の被害について研究をした。また一方外国および国内の耐震基準の調査をもちあわせ行なった結果一応報告書（案）を作成した旨，久保幹事長から報告，同報告書（案）について内容説明を行なった。今年度は，この報告書に資料（選択）を添付して報告することに決定。

13. 異形鉄筋に関する懇談会 (35.3.18) 出席者：国分副委員長，杉木，河野，後藤，岩間，丸安，多田，土岐，太斉，深谷，三浦，山崎，川口の各委員，樋口幹事。議事：1) 異形鉄筋の研究について（国分副委員長）

今までは供給も順調でなかったが今後変わっていくきざしがあるので研究してみたい。試験的に現場で使ってみると面白い旨報告され諒承された。鉄筋量，消耗品代，型わく等の所要量を25，26日までに，学会コンクリート常置委員会あてお知らせ願うことになった。

2) 連続舗装試験について（岩間委員）

建設省土木研究所が千葉道路試験施設において行なわれた試験結果について報告あり。

14. 第5回論文集部会長会 (35.3.22) 出席者：最上部会長，奥村，竹内，大久保，田島，細井，山口，千秋の各委員，徳平（前），西脇両幹事。議事：1) 各部会報告，2) 第1部会幹事交代，田島幹事後任大久保委員，3) 論文集68号（35.5発行）登載原稿の予定，4) 68号別冊論文として国分・河原・太斉・共著「各種フライアッシュの共通試験報告」を決定，5) 委員交代の件。

15. 第10回会誌編集委員会 (35.3.22) 出席者：田原委員長，北郷（北海道），後藤（東北），田中（関西）の各地方委員，斎藤，中村，梅野（代大河原），南部（代西原），寺島（代井前），難波（代尾形），浅井（代田中），米沢，堺の各委員，杓掛幹事。議事：1) 投稿原稿審査報告，2) 新規受付原稿審査委員の決定，3) 依頼原稿状

況およびその内容について、4) 45 巻 5 号登載原稿を次のとおり予定した。

粕谷逸男：半断面掘削工法と峯トンネルの実績について、吉村・清田・村橋：道路ランガー桁(子飼橋と銀座橋)の載荷実験、神谷貞吉：最近におけるペンストックの破壊問題について、永井・久保：伊勢湾台風時の愛知県および三重県の北部海岸における最大波浪の推定、久保慶三郎：メッシナ市の地震工学研究会議の報告、矢崎・石垣：八久和ダムに使用したセメントの品質の変動について。

16. 土木賞候補論文推薦調整主査委員会(35.3.22)出席者：最上、田原両主査、八十島編集部長、米谷、北郷両支部代表、米沢、齊藤、光易、伊東、平嶋、佐藤、千秋、鈴木、竹内、伊藤(文)、奥村、嶋の各審査員、徳平、西脇両編集幹事。議事：土木賞候補論文につき編集部、各支部から推薦された論文集 14 件、学会誌 6 件、北海道 1 件、関東 1 件、関西 2 件の学会賞、奨励賞(学術賞、技術賞)の調整について協議した。

17. 第 35 回耐震工学委員会(35.3.23) 岡本、神谷、田原、寺島(代遠山)、畠山、比田、久保、高田(代栗林)、伊藤(代馬場)の各委員。議事：1) 地震会議の準備状況について一般的報告があった、耐震工学委員会として土木関係だけの発表論文のパンフレットを作り外人にお土産としたい、その計画予算および地震会議全般について了解を求めるために岡本委員が次の理事会に出席して詳細説明することとなった。2) 地震会議依頼論文の処理方法につき 4 月 5 日関係者が集まって相談することとなった。3) 第 4 回地震工学研究発表会は地震会議に提出した 18 論文のうちから選んで講演 40 分質疑 20 分位にして発表することとし一般募集はしないこととした。4) トレーニングセンターについて日本政府がやれば国連が出資することとなる、とりえず東大でお世話をして発足する、やがては委員会を作ることとなる。5) 国鉄委託研究について久保委員から報告があった。

18. 長大橋梁および鋼鉄道橋研究委員会(35.3.28) 出席者：田中委員長、成瀬、平井、奥村、田原、友永、中村、田中(五)、中根、小西(代山田)、村上の各委員、安藤、安浪、杵掛、西村、田島、菊池、宮沢、西脇、伊藤(学)の各幹事。議事：1) 前回(35 年 2 月 10 日)議事録について、2) 資料 No. 112「ZH 鋼の特性におよぼす溶接の影響」について奥村委員説明、3) 資料 No. 113「高強度鋼材におけるすみ肉溶接疲労試験結果」について、小西委員(代理山田)説明、4) 溶接鋼鉄道橋設計示方書案について審議、5) 明石海峡橋梁の設計案について平井委員説明、6) 長大橋梁設計基準案について審議。

19. 土木賞規約制定委員会(35.3.28) 出席者：星塾委員長、糸川(代三好)、沼田、後藤、荒井、丹羽、庄司の各委員。議事の概略：1) 第 4 回委員会の議事録に省かれた事項を追加する。2) 委員の旅費のこと、委員会

の回数、委員の任期、投票の方法、委員の内容等。3) 共著の論文について、4) 既受賞者の場合の取扱い。5) 審査の投票手続き、6) 受賞の対象の範囲、等につき論議されたが、今年度の土木賞委員会の運営を見てさらに意見の交換をすることとした。

20. 第 11 回文献調査委員会(35.3.29) 出席者：樋口委員長、伊能、土屋、今岡、日野、南雲、安芸、徳田、福沢(代石井)、高野、片山(代御巫)の各委員、佐藤幹事。議事：1) 会誌 45 巻 5 号登載文献抄録および目録の選定、2) 論文抄録の執筆形式について、3) 各大学紀要の取扱いについて、4) 文献目録カードの分類担当者の決定、5) 委員交代について、福沢委員後任に石井弓夫氏(建設技術研究所)を決定した。

支 部 だ よ り

1. 東北支部

技術研究発表会(35.3.2, 9.00~17.00 時 仙台市ブラザー軒) 聴講者：140 名

論題および講師

- 1) 汚泥の脱水に関する基礎的研究 東北大学 遠藤 郁夫
- 2) 締固め土の性質におよぼす載荷速度の影響 東北大学 {伊藤 文雄
長谷川信夫}
- 3) 方杖桁についての研究 東北大学 浪越 勇
- 4) 複合確率と河川工事計画におけるその応用について 東北地建 長沢 敏夫
- 5) 錦橋(PC箱型桁)の設計について 宮城県土木部 {高橋 巖
佐々木正栄}
- 6) 港湾工事における工事管理について 青森港工事事務所 宮崎 敏夫
(特別講演) 欧州の橋梁視察 東北大学 樋浦 大三
- 7) 仙塩工業用水道事業の概要について 宮城県土木部 石川 嘉一
- 8) 仙台火力岸壁地区貯炭場地盤改良工事について 東北電力 鳥居 良明
- 9) 漏水対策の新工法と施工機械 東北地建 荒木 道雄
- 10) 横黒線付替工事の概要について 国鉄大荒沢出張所 片瀬 貴文

2. 西部支部

西部支部総会(35.3.11, 福岡市電気ビル ホール)

(1) 記念講演

- 1) ヨーロッパのダム雑談 支部長 田代 信雄
- 2) マルパセ ダムの話その他 間 組 藤原 儀平

(2) 総 会

- 1) 開会の辞 武田幹事長
- 2) 支部長挨拶 田代支部長
- 3) 事業報告 武田幹事長
 - a. 昭和 34 年度事業報告
 - b. 昭和 34 年度会計報告
 - b. 役員改選結果報告
- 4) 新支部長挨拶 石井福岡県土木部長
- 5) 閉会の辞 武田幹事長

(3) 映画「九州」

(4) 役員改選

支部長	石井 謙	福岡県土木部長
地区常議員	秋竹 敏美	九州地建企画室長
"	武田 武男	九州電力土木部計画課長
"	篠原 謹爾	九州大学教授(再選)
"	田内 俊	福岡県土木部河川課長
"	春成 正	国鉄西部支社調査役
"	田賀 秀和	第四港建次長(留任)

商議員：上野省二，上ノ土実，東条哲夫，佐藤康治，坂田静雄，長瀬 新，河村 繁，松尾博茂，長久程一郎，石田一郎，田中寛二，塩塚重蔵，笠 忠男，田代信雄，広田兼賀，富田恵吉，村上 正，藤芳義男，川上謙太郎，田中敬親，鶴端貞雄，兼重讓，

幹事長：田内 俊，幹事：伊藤 甫，立部 貴，山田専一，直村徳三，荒木正夫，藤戸竜爾，有田 達，近藤 誠，木下定雄，古川寛美，岩辺清磨，二上哲雄，中野孝行。

3. 中部支部

中部支部年次大会 (35.3.12, 13, 四日市市公会堂)

日程：3.12. 10～11 時 大会行事
 11～12 時 講演会
 13～16 時 見学会
 18 時より 湯ノ山温泉にて懇談会
 3.13. 9～11 時 見学会

4. 関西支部

(1) 技術講座4号 (昭 35.3.15, 17, 21 の3日間，神戸大学工学部松野学舎)

- 1) 講座名と講師：浸透および透水に関する問題点
神戸大学教授 工博 田中 茂
- 2) 参加費：100 円 (テキスト代をふくむ)
- 3) 参加者：34 名 (申込者 38 名，うち 27 名修了証書交付)

(2) 第3回見学会 (昭 35.3.19)

- 1) 見学先：大阪市津守下水処理場 (既設) および中浜下水処理場 (工事中)
- 2) 参加費：100 円
- 3) 参加者：67 名 (申込者 80 名)

(3) 第11回幹事会 (昭 35.3.21, 大阪建設会館)

出席者：江口支部長，小西幹事長，石田，伊藤，大野，北村，後藤，中川，八木の各幹事。

(4) 第3回商議員会 (昭 35.3.21, 大阪建設会館)

出席者：商議員一明石，中村，田中常三 (代河盛孝夫)，西田 (代山下博通)，上原哲雄，大島，加納，曾根 (代奥村 一)，野間口。

常議員一藤田，江口支部長兼常議員。

幹事一小西幹事長，石田，伊藤，大野，北村，後藤，中川，八木。

(5) 道路工学に関する講習会 (昭 35.3.28～29, 大阪府職員会館大講堂)

1) 題目と講師：

3月28日

1. 路体構造の問題点 大阪大学助教授 工博 伊藤 富雄
2. 軟弱地盤対策 京都大学助教授 工博 松尾新一郎
3. ソイルセメントの設計
大阪市立大学講師 工博 三瀬 貞
4. ソイルセメントの施工
日本道路公団大阪支社道路部工事課長 星野 出雲
5. 最近のコンクリート系舗装
京都大学教授 工博 岡田 清
6. アスファルト系舗装の問題点
日本舗道KK大阪支店長 大森豊二郎

3月29日

1. 道路交通計画の諸問題
大阪市立大学助教授 工博 毛利 正光
2. 道路交通工学における最近の趨勢について
京都大学教授 工博 米谷 栄二
3. 道路構造令解説 建設省関東地建関東四号国道工事事務所長 菊地 三男
4. 高速道路工事の問題点 日本道路公団名神高速道路京阪建設所長 広長 良一
5. 管内道路工事の問題点
建設省近畿地方建設局道路部長 大串 満馬
6. 管内道路工事の問題点
大阪府土木部道路課長 北村 正之
7. 管内道路工事の問題点
神戸市建設局土木部長 神生 秋夫

2) 参加費：400 円 (テキスト代をふくむ)

3) 参加者：472 名 (うち関西支部以外 128 名)

(6) 講師懇談会 (昭 35.3.29, 中央電気倶楽部)

昭和 34 年度関西支部主催の講習会，講演会，技術講座および工事研究会等に出講をお願いした京阪神在住の各講師と，前支部長，ならびに地区常議員の方々との懇談会を標記のとおり開催した。出席者：36 名。

会員入退会について (昭和 35 年 3 月 31 日現在)

1. 入 会 61 名 (正 51, 学 6, 特 1 C 1, 特 2 1, 特 3 2)
2. 退 会 66 名 (名誉 1, 正 57, 学 4, 特 2 1, 特 3 3)

会員現在数 (昭和 35 年 3 月 31 日現在)

名誉員	賛助員	特1A	特1B	特1C	特2	特3	正員	・学生員	減少	計
26	30	17	17	78	110	103	13 526	1 135	5	15 042

編集
後記

いつしかに 春はうつりし 庭の雨
目新しかつた 表紙の空色にも 大分なじん
できました。何となく楽しかつた春も、も
うおしまい……。

御好評を頂いている豆知識欄的な要素を加味した「メ
ーカークからユーザーへ」という欄を新設しよう、広告索
引欄も作ろう、などと、さかんに無い知恵をしぼつてお
ります。“暮しの手帖”が面白くないのは広告欄がないか
らです！よいお考えがありましたら何卒お教え下さい。

土木賞の発表も間近にせまりました。これにちなんだ
わけではありませんが、最近読んだものの中から気分つ
た文章の一つ……。

「新しいことを考えるといつても、ただ考えただけで

は何にもならないし、いいアイデアだからといつて、特
許をとつてみたところではじまらない。それを自分で形
づくつてゆくことが大切なのだ。新しい考えを実践的に
結末づける、ということと反ぶく、それが私の一生の仕
事だと思つている。要するに人の真似をしない、とい
うことだ」

ずい分えらそうなことを言つていると思つて書いた人
を見ると、今を時めく井深ソニー社長

「ゼロからの出発、そしてその反ぶく、これが私の人
生なのだ！」

われわれ若年寄にはいささかギョッですが、ほんとう
に若い会員の方々どうかよろしくお願い致します。

【樋口・記】

世界デザイン会議について

財団法人世界デザイン会議日本運営会は、35年5月に日本で世界デザイン会議を開催するために発足した。

この会議の参加者は、それぞれ個人の資格で全世界の著名なデザイナー、研究者、海外約150名、日本国内か
ら150名、オブザーバー100名、計400名。なお産業や行政機関のマネージメントスタッフも重要なメンバー、
またはオブザーバーとして参加する。

討議内容はデザインの全分野（産業デザイン、商業美術、工芸、建築、造園、都市計画）を横につないで、共
通の諸問題や、それぞれの特殊問題を総合的に討議する。

世界デザイン会議日本実行委員会は上記運営会に協力し、会議を成功させるために、日本のデザイナーおよび
デザイン関係者によつて組織されるものである。

会員は第1部会（グラフィックデザイン）、第2部会（クラフトデザイン）、第3部会（インダストリアル
デザイン）、第4部会（建築、都市、ランドスケープデザイン）、第5部会（デザイン教育、研究、デザイン評
論）のいずれかの部会に属することになる。

会議に関する資料、規約、会員登録用紙を希望する方は郵便切手100円を同封し、下記事務局まで申し込まれ
ばお返し送付してくれる。

東京都港区麻布鳥居坂2 国際文化会館内 世界デザイン会議日本運営会

御投稿のお願い

会誌のニュースはできるだけ地方ニュースももらさないように努力していますが、取材に当たつてみますと、やは
りもれているものが多いようです。着工、工事中の状況、完成した構造物など、お気づきのものはどしどし御投稿
下さい。どこで何をどういう方法でやつているというヒントだけでも助かります。口絵写真のページも大いに御利
用下さい。カメラ会社の文句ではありませんが、“貴方のネガの中に埋もれている傑作を……”多数お待ちしております。
【編集部】

名誉員 那波光雄君 東京都目黒区洗足1472 (電(781)8659) 昭和35年4月1日死去 91才
正員 一万田七郎君 福岡県中学修猷館教諭 昭和33年8月4日死去 63才

昭和35年4月15日印刷

印刷者 大沼正吉

発行者 末森猛雄

定価 100円

昭和35年4月15日発行

印刷所 株式会社技報堂

発行所 社団法人土木学会

振替 東京 16828 番

土木学会誌 第45巻 第4号

東京都港区赤坂溜池5番地

東京都新宿区四谷一丁目(外濠公園入口)

電話 (351) 5130・5138・5139 番